

名称 「虎嘯山龍昌寺・伊達（伊東）右近の墓碑」

所在地 谷地小屋字潤崎

概要 本尊仏聖観世音、宮城県亶理町曹洞宗大雄寺末寺、慶安2年（1649）大雄寺四世香洲和尚の開基創建と伝えられている。

境内に、伊達（伊東）右近の墓がある。右近は、亶理の伊達宗実（政宗の九子）の次子、刑部宗定（政宗の孫）が伊東家（仙台藩着座）を継ぎ、右近重定と改称した。しかし事情があって亶理に帰り、新地の菅沢に家臣数名とともに住み、宝永7年（1710）に死去した。

古 戦 場

名称 「御殿岬戊辰戦役跡」

所在地 今泉字南中磯

概要 慶応4年（1868）8月7日から、戊辰戦役の駒ヶ嶺口の戦いが開始された。11日には拠点である駒ヶ嶺が官軍によって攻め落とされ、その反攻作戦の浜通りの進撃を松山隊が受けもった。

8月20日の反攻作戦は、当初やや有利に進み、今泉からさらに進撃する態勢に移ったが、ちょうど俄か雨が降ってきたため、火なわ銃は役に立たなくなった。

官軍は優秀な装備をしており、たちまち逆転して敗勢となりやむなく退却したが、官軍側に退路を断たれてしまった。

孤立した松山隊は、中磯の御殿岬に追いこまれ、海を背負って死力をつくして最後まで勇敢に戦い、撃たれる者、斬られる者、断崖から海に落ちる者、ついに27名（内2名は負傷後）が壮烈な戦死をとげた。

この中には、両刀をふるい、果敢に抵抗した老齢の武士がいたということである。たまたま別行動をとっていた隊長の鈴木市郎左エ門は、責任を感じて大戸浜観音寺の古松の根元で自害をとげた。

鈴木市郎左エ門の墓と、松山勢の戦死者の墓は大戸浜観音寺の墓地に建っている。

また、戦死塚が今泉墓地内にある。